

各教科等における 「令和4年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。また、徳島県GIGAスクール構想の推進を図り、各教科等の特質・内容に合わせて1人1台端末を活用し、「個別最適な学び」「教科等の学びの深化」「教科等横断的な学び」を実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

本県の児童生徒に身に付けさせたい力

- ・ 文章の中心的部分と付加的部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを読み分けて要旨を捉えたり、問いの意図やその解決に至る経緯を正しく理解したりする力
- ・ 目的に応じて必要な情報を集めるための見通しをもって臨み、根拠として取り上げている内容が適切であるかどうかを吟味したり、また、その根拠が適切であるか理由が明確になるように自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりする力
- ・ 相手の意図を捉えたりしながら自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、場に応じた適切な言葉遣いで話したり、書いたりしながら、互いに伝え合う力

正確に読み取らせるには！！

- 問題提起の部分や重要な部分などをアンダーラインや丸で囲ませよう。



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連づけてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



目指す子供の姿

- 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けることができる。
- 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究することができる。
- 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

①自然事象についての知識を深めたり、観察・実験の技能を身に付けたりする学習活動の充実

- ◇自然現象についての知識を深め、理解したことを適切な用語で説明する学習場面を多く設定する。
- ◇観察・実験の目的を理解し、その過程や器具等の適切な操作や結果の記録により、問題解決につながる活動を充実させる。

②身近な事物・現象の中に問題を見だし、「探究の過程」をたどらせる学習活動の充実

- ◇身近な事物・現象の中に問題を見だし、各自が根拠のある予想や仮説を立て、考察を行うなど、見通しをもって観察・実験を行う場面を設定する。
- ◇各自の考えを図やモデルを用いて科学的な筋道を立てて説明し、互いの考えを共有する場面を設定する。

③自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に思考、表現する学習活動の充実

- ◇各自が自分の考えをもち、他者と意見を交わすことを通して、自らの考えを修正する場面を設定する。